

# 実践記録を資料とした

## 導入過程の研究

今泉喜久子

本田和子

——はじめに——

保育の現場において、その瞬間々々は極めて体当りの行なわれがちである。そして「その場その場で瞬間的に提出される具体的な問題、それをいかに解決し、いかに展開させるか。」その判断は、当面した保育者のその場での全人格的な知恵を綜合してなされるか、或いはその個人もしくは園での慣習によってなされるかの、いずれかである場合が多い。そして、保育の経験が重なり、保育に熟練してくるに従って、その瞬間的な判断や解決が、その場の保育を成功へ導く確率は次第に高まってくるであろう。

保育者の保育技術が向上し、問題の処理が巧みになること、それは一応、現場的にみての保育の進歩ということが出来る。しかし、これら具体的な成功体験は、そのままではその個人個人の瞬間的な体験にとどまって、個人的な経験の世界以外には、資料としても、理論としても蓄積されることがない。

そこに一つの問題を感じるのには私達ばかりではないであろう。それは、現場からよりよい保育を行なうための法則が導き出される機

会を無にしてしまうことになるし、理論と實際を平行したバラバラなものとして存在させる結果をも招きやすいからである。

「現場の研究」ということが、保育の前進のために重要視されている。そして、問題意識をもって場にのぞみ、現場で発生した解決を要する事柄を把えて問題を設定し、それに対処することが要請されている。従って、格別研究的な意図を持たず、体当りの営まれた実践活動の所産、しかも現場的価値の極めて高いそれらを、研究的に処理し、原理化し、体系化するということに対して、私達は今少し関心を向け、努力すべきなのではないだろうか。

「現場における研究」の障害となるものとして、経験を至上のものとし、経験に依存しようとする態度が挙げられる。しかし、経験を客観的に分析・処理するという手続きを怠らず、それを一般化し体系化しようとする態度を忘れないならば、経験主義と研究主義は矛盾することなく両立し合うものと思われる。

私達はこのような立場から、実際に展開された保育活動の記録を分析し、その過程を考察するという試みをなしたわけである。

## (1) 方法

① 私達は例年農繁期季節保育所を開催している。ここでの実践は、場所・設備その他の条件が極めて特殊であることも手伝って、理論を超越した体当りの保育の展開となりがちである。私達はこの保育を一つの対象として考え、前記のような考察を行なってみた。

② 季節保育所の収容児は一般に次のような特質をもっている。即ち、

イ、社会性の未発達。(集団に入らない。泣いて家に帰る。口をきかないなど)

ロ、経験の貧しさからくる特性。(遊具・遊びへ興味を示さない。遊具の扱い・遊び方を知らない。知識が貧しい。言語生活が貧弱である、など)

ハ、集中力の乏しい。(野生的・衝動的に生活している)

ニ、年齢混合の扱いを余儀なくされる。

ホ、基本的生活習慣の未確立から生じる集団生活の混乱。

従って、各々が個人的な興味に従ってバラバラに遊びがちであり、戸外では、花を摘む・蛙をつかまえるなど、室内では、かけ廻る・たいこをたく・積木やお手玉を投げ合う、などの行動が発生しやすい。保育者の側で予定し準備した活動への導入が極めて困難である。このような対象がスムーズにある活動へ導入され、積極的にそれを展開させていった成功例があるとすれば、それは考察に値する実践例であると考えられる。(「報告事例A」はその一例)

そしてこの場合は、研究の主題は導入過程の考察という点におけるわけである。

③ 資料の性格が極めて特殊であるので、その点を考慮して、一般の幼稚園における資料に基くものとの比較検討を行なった。

(「報告事例B」)

④ 資料は次のようにして求めた。

「報告事例A」に関しては、保育期間中を通じて成功したと思われる導入例を、保育者自身(ここでは今泉)と指導者(ここでは本田)が選び出し、保育日誌・日報などをもとにして、忠実にその場面の経過をおもい出すことに努め、それを記録の形に整えた。

「報告事例B」に関しては、保育者自身(今泉)は同様の手続きで記録を整えたが、この場合は客観的な観察記録(観察者本田)があったので、それと総合して資料とした。

⑤ 資料の分析及び考察は次のように行なった。

イ、保育者自身(報告事例では今泉)が、幼児の導入に関して効果的に作用したと判断し得る箇所を選び出す。

ロ、実際に保育に当らなかった者(報告事例では本田)が、記録をみて、前者と同じく、同様の手続きをとる。

ハ、両者の選び出した部分について、一致したものは無条件にとり上げ、不一致の部分は話し合いの結果、選択して採用した。

ニ、選び出された部分について、各々の箇所の有する意味・効果度・適切性を検討した。

## (2) 保育の経過

報告事例AはM部落保育所での、開所後七日目の午前中の経過である。男児五名が保育者の誘導に従って、「お店やさんごっこ」を三時間以上にわたって展開している。

報告事例Bは、S幼稚園における六月下旬の自由遊び場面の記録である。S幼稚園の戸外設備は次のようである。

新しく設備されたシーソーが最も利用率が高く、他の設備の利用率は従来より幾分低下した状態で六月下旬を迎えた。特に砂場で遊

| 遊具名     | 数 | 六月中の利用状況                    | 備考         |
|---------|---|-----------------------------|------------|
| ブランコ    | 4 | いつも誰かが利用している。いつも数名の男児が利用する。 |            |
| ジャンブルジム | 1 | 右に同じ。                       |            |
| すべり台    | 1 | 時々2、3名が利用する。                |            |
| たいこ橋    | 1 | 時々2、3名の女児が利用する。             |            |
| 鉄棒      | 3 | 時々2、5名乗ってそれ以上が待っている。        |            |
| シーソー    | 1 | 4、5名乗ってそれ以上が待っている。          |            |
| 砂場      | 2 | たまたま男児1、2名が利用する。            | 六月上旬に新しく設備 |

ぶ幼児が極めて少なく、稀に砂場に入っている。砂をいじる・砂をすくう・こぼす、といった単調で表面的な活動に終始して、積極的・構造的な遊びが展開されることは殆んどなかった。

次の記録は保育者（ここでは実習生今泉）の自然な誘導が意外に効果を挙げて、七、八名の幼児達が積極的な砂遊びを展開し、次に予定されていた室内活動に移ることを喜ばなかった事例である。六月下旬のある月曜日の朝、自由遊び場面で発生した活動であり、報告者（今泉）は年長組所属の実習生である。

### (3) 分析の結果

前述のような手続きで分析した結果を一括すれば次のようである。（表Ⅰ）

これらの中で、教師と幼児の活動が、導入に効果的に作用している場合を、更に分析し、その活動内容を分類した。（46頁表Ⅱ）

### (4) 結果の考察

前述のような結果は、何を意味するのであろうか。具体的に、幼

表Ⅰ

| 計  | 導入に効果があったとみなされる事柄                                      |                     | その他                        |
|----|--|---------------------|----------------------------|
|    | 教師の活動  | 幼児の活動               |                            |
| 35 | ⑥のイ、⑦のロ⑩⑪⑫<br>⑬のイ、ロ、ハ<br>⑭のイ、ロ、ハ<br>⑮⑯のイ、ロ、ハ<br>⑰⑱のロ、ハ | ⑥のロ、ハ⑩のハ<br>⑬のイ、⑭のロ | ⑥のロ、⑩のイ<br>⑪⑫のロ<br>⑬のイ、⑮のイ |
| 14 | ⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕のロ  | ⑲のイ                 | ⑲⑳㉑㉒                       |
| 11 |  |                     | ⑲⑳㉑㉒                       |
|    |  |                     | 真剣な雰囲気                     |

児のある活動へ導入する場合には、私達のとるべき行為をどのように指示しているのであろうか。

### ◆教師の活動について

①言語のみの誘導は効果が少ない。

教師の活動内容をみると、それは全て行為或いは言語を伴った行為であって、言語だけが幼児を動かしている場合がない。これは極めて興味深い資料と思われる。即ち、対象とする幼児達にはことばだけの導入は効果がなく、行為或いは行為とことばの結びついたもののみが、効果的に働いているわけである。

②対象の相違に応じて、効果をもつ教師の活動も異ってくる。

表Ⅱによれば、事例Aと事例Bにおいて、効果を挙げている教師の振舞い方がかなり異っている状態が認められる。即ち、事例Aで効果を挙げている「実際に遊んでみせる」、「魅力的な材料を興味深げに示す」という活動が事例Bでは余り効果がなく、逆に、事例Bで効果のある「幼児の活動を技術的に援助する」、「幼児を励まし賞

「事例A」

| 教師の活動  | 幼児の活動  | 材料   |
|--|--|--|
| <p>①到着。(午前七時二〇分)</p> <p>②準備 (戸をあける。玩具) を出して列べる。</p> <p>③「さあ、絵を描きたい人はフレバスを出す。」</p> <p>④「あ、今日はこれを塗んだったね。そして、お店やさんごっこしましょう」</p> <p>⑤「積木で遊びたい人こっち」と積木を出してやる。</p> <p>⑥イ、「これ汽車、仙台行き、ポ—ポ—」と動かす。</p> <p>ロ、「汽車ごっこするの」と、カバンと同時に笛ひもを渡す。</p> <p>⑦イ、塗っている状態のをぞいてみる。</p> <p>ロ、果物を塗る。</p> <p>⑩イ、「カバンもあるし、果物も一杯になったから、こんどはお店やさんしたら？」と塗り上げたものを見せる。</p> <p>⑪「はい、お釜かけて上げましょうね。」と牛乳びんのふたを分けてやる。</p> <p>⑫「果物屋さん」と玩具屋さんね—と画用紙製の果物と、あり合せの玩具を渡す。</p> | <p>①雨の中を保育者の到着を待っている。</p> <p>②玩具をいじる。(たいこをたたき笛を吹く。)</p> <p>③集ってくる。</p> <p>④イ、幼児A・B・C塗りをはじめ、ロ、Cはすぐ止める。</p> <p>⑥イ、Dがまねして積木を動かす。E、部屋のスみにぶらさげてあって紙の下げカバンを「とってけい(とって下さい)」とたのむ。</p> <p>⑦イ、A、Bは果物に色を塗る。ロ、Aが「せんせ、これ塗ってけい」と塗りかけを渡して、Bも汽車ごっこへ行く。</p> <p>⑧A、また先生の所へ来て果物塗りをしている。</p> <p>⑨汽車ごっこでけんか発生。(お客が停車場で待っているのに止まらずに通り返す)</p> <p>⑩イ、「そうだね。」「お店やるの？」</p> <p>ロ、「おれうる人。」「おれもうせんせ、おれもうん」</p> <p>ハ「多いいちや、そんなに」「兄ちゃんやっから」</p> <p>「いいよ」A、Bのお店や、C、D Eはお客と役割が決まる。</p> <p>⑫B「おれ、おもちゃ」</p> | <p>たいこ<br/>笛など</p> <p>果物の絵<br/>ふちだ<br/>てか<br/>い</p> <p>カバン<br/>ひも</p> <p>あり合<br/>せの玩<br/>具</p> <p>お金</p> |

「事例B」

| 教師の活動  | 幼児の活動   | 材料                                     |
|--|---|--|
| <p>①「何しているの」と砂場に入る</p> <p>②砂をいじろうとする。</p> <p>③「あら、そうごめんさいね」としゃがんで見ている。</p> <p>⑦「ね、アーちゃん海へ行ったことある。海で砂遊びしたことある？」と男児に問いかける。</p> <p>⑧「あら、ガブガブってしゃべったでしよう？」</p> <p>⑨「そうね。だから浅いところでジャブジャブ泳ぐのね」</p> <p>⑩「それから砂遊びしたりするのね」</p> <p>⑪「波がザブンザブンくるでしょ。そこで穴を堀ったりトンネル作ったり。皆んなもするでしょ？」</p> <p>⑫砂場に入ろうとする。</p> <p>⑬サンダルにはきかえて砂場に入る。</p> <p>⑭如露で水をまく。「お水！お水！ホーラ、海の砂のようになったでしょ。お山を作ってもこれないのよ」</p> <p>⑮「ほら、こんな砂の方がいいでしょ」とぬれた砂を集める。</p> <p>⑯もう一度水をまく。</p> <p>⑰「これたいはくさん？ それともさおう？」</p> <p>⑱「うきとかめのお山？」</p> <p>⑲「あのね、兎と亀ここまでかけっこしたのね」と頂上を示す。</p> | <p>①男児2、女児1、各々木片を持ちしゃがんで砂を叩いたり、手で自動車を走らせたりしている。</p> <p>②女児「先生、手をつけないで」</p> <p>③女児何となく砂を握る。</p> <p>④男児が木片でその穴を埋める。</p> <p>⑤「だめじゃないの。こっちはそんなにしないの。こっちはいいでしょ」と女児が抗議する。</p> <p>⑥男児、知らん顔して同じ動作。</p> <p>⑦「ほく、海、行ったことあるよ。女児「あのね、すいかのボールで泳いだの。そしたら水のんじやった」</p> <p>⑧笑いながら「ウン」</p> <p>⑨イ、「あのね先生。浅い所の魚は食べられないよ」と男児「ロ、女児「深い所の魚、舟でとるのね」</p> <p>ハ、男児「深いところへいくと死んじやうよ」</p> <p>⑩うなづく。した「した」</p> <p>⑫女児「あら、先生上靴。だめでですよ、砂場は外ですわ」</p> <p>⑬男児「ザザ・ザブーン」と云いながら木片で砂をかき廻す。</p> <p>⑭砂をいじり始める。(ここで始めて手でじかに砂をいじる)</p> <p>⑮砂がバラバラになる。</p> <p>⑯一緒に山を作りはじめる。</p> <p>⑰「うん」「せんせい、もつと大きく」</p> <p>⑱「てっぺんに旗あるよ。探してくるからね」棒を持ってくる。</p> | <p>木片</p> <p>水</p> <p>水如露</p> <p>棒</p> |

13イ、「ちよっと、ここにバナナはバナナって並べたら？の方がきれいでしょ」  
 ロ、箱を探して渡す。ついでにぶるね用の枕や花びんしきを座ぶると称して並べる。  
 14イ、「ごめん下さい。りんご下さい。いくらですか」  
 ロ、「はい、10えん、20えん、30えん、40えん、50えん。はい50えん、どうもありがとうございました。」  
 ハ、「もうし、これけさい。レモンけさい」  
 ニ、「それなんぼっしゃ」  
 ホ、「高いね。まけてけさい」  
 ヘ、「はい、20えん」  
 15「せんせいの所へ、お金持って買いきなさいね」  
 16イ、画用紙にぶどうを描く。  
 ロ、「これ何だと思う？」  
 ハ、「はい、50えん」  
 17「あんたはお店から買いきなさいね。」  
 18イ、いろいろな果物を描く。大きなすいかを描く。  
 ロ、にんじん、大根、ごぼうなど紙で立体的に作る。  
 19イ、「待ってね」とCをなだめる。  
 ロ、大きなすいかを描いて、A、Bに光る。  
 ハ、そのお金をCにやる。

13イ、C、D、E、ごちゃごちゃと果物屋に集まっていじり廻す。  
 ロ、「おもしろくない(面白くない)」とB、果物屋に転業。  
 14イ、B「そだ。箱けさい、箱」  
 ロ、「箱に入れっからね」  
 ハ、各々の箱に果物を入れて並べる。  
 15イ「50えんです」とA、B。  
 ロ、「もうし。これけさい。なんぼっしゃ」と買いくる。  
 ハ、A「レモン？」  
 B「レモンでこれね、これ、せんせ」  
 ホA、「まけっからね。せんせ、20えん」  
 ヘ、C、D、E各々「もうし。これけさい」と買物を続ける。  
 16イ、「せんせ、こっち売る物ねぐなつた」とA、B、が騒ぎ出す。  
 ロ、保育者から売った品物を買って、お店やごっこ続く。  
 17C「先生、おれにも」  
 18イ、「ウァーすいか」と幼児達、歓声を上げる。  
 19イ、Cのお金がなくなる。  
 20イ、C「お金、ねぐなつた。ねぐなつた」  
 ハ、「お金けさい」とA、Bに要求するが、A、Bはやらない。

箱、枕、花びん、すいか

20「それ少し大きすぎるでしょ。もうちょっと小さいの」  
 21イ、ずいぶん固くなったわね。もうくずれないわね」  
 ロ、「先生ごっこ」  
 22「あなたはそこね。それから先生ごっこ。いい？ そつとね」  
 23水を汲んでくる。  
 24一人遊びを始めた男児に、自分の場所をゆずってやる。  
 25「もう少し掘ってごらんさい」  
 26「大丈夫、こうしてもう一度掘ればいいでしょう」と修理。  
 27「あのね、もうすこしぬれた方がいいのよ。お水汲んできましようね」と水を汲んできてバケツを置く。  
 28「ほら大丈夫でしょう」  
 29新しいグループにも水を汲んできてやる。  
 30「あの上手ね。前にも作ったことあるの」  
 31「ここにへいを作って、そつちのトンネルとごつちをつなけるといいわね」と砂でへいを作る。  
 32イ、そばへ寄りながら「きつきも出来たんだから、ゆつくり上手に掘ってごらんさい」  
 ロ、完成した方を指して「ほらあれみたいに」  
 33「またあとでしましょうね」  
 34「また、あとでしましょうね」  
 35「また、あとでね。先生が待っていらっしやるわよ」  
 36細長い石を頂上に埋める。皆さん石で山を叩いてかためる。  
 37傍観者の表情、ますます真剣になる。  
 38「トンネル掘るからね」ここから掘るから「僕」ここぞ思いの位置から掘りはじめる。  
 39掘りはじめる。  
 40傍観者、靴を持ってきて砂場に入る。真剣な表情。  
 41男児山にかけを。思い直して砂場にもまく。砂ますますしめる。  
 42イ、傍観していた男児、一人で砂遊びを始める。  
 43男児、砂場所をゆずられて、トンネル作りに参加する。満足した表情。  
 44「先生、穴あかない」  
 45「ぼくがする」と手でジャブジャブと水をまく。山にかける。  
 46作り出す。  
 47貫通する「先生あいたよ」  
 48男児、更に砂場に3名入ってきたトンネル作りに参加しようとするが止めて別に山を作り始めるが、砂場内に二つのグループが発生するわけである。  
 49イ、旧グループのトンネルを男児一人が最後まで残って貫通させる。「先生出来た」  
 ロ、「うん」

石、バケツ

レコードが鳴り出して、部屋に入る時間を告げる。幼児達部屋へ入る。

33「またあとでしましょうね」  
 34「また、あとでしましょうね」  
 35「また、あとでね。先生が待っていらっしやるわよ」  
 36細長い石を頂上に埋める。皆さん石で山を叩いてかためる。  
 37傍観者の表情、ますます真剣になる。  
 38「トンネル掘るからね」ここから掘るから「僕」ここぞ思いの位置から掘りはじめる。  
 39掘りはじめる。  
 40傍観者、靴を持ってきて砂場に入る。真剣な表情。  
 41男児山にかけを。思い直して砂場にもまく。砂ますますしめる。  
 42イ、傍観していた男児、一人で砂遊びを始める。  
 43男児、砂場所をゆずられて、トンネル作りに参加する。満足した表情。  
 44「先生、穴あかない」  
 45「ぼくがする」と手でジャブジャブと水をまく。山にかける。  
 46作り出す。  
 47貫通する「先生あいたよ」  
 48男児、更に砂場に3名入ってきたトンネル作りに参加しようとするが止めて別に山を作り始めるが、砂場内に二つのグループが発生するわけである。  
 49イ、旧グループのトンネルを男児一人が最後まで残って貫通させる。「先生出来た」  
 ロ、「うん」

表 II

| 幼児の活動         |                 |                        |              |               | 教師の活動                   |                        |                |                             |                        |                         |  |                               |                                       |                        |                |
|---------------|-----------------|------------------------|--------------|---------------|-------------------------|------------------------|----------------|-----------------------------|------------------------|-------------------------|--|-------------------------------|---------------------------------------|------------------------|----------------|
| 6             | 5               | 4                      | 3            | 2             | 1                       | 10                     | 9              | 8                           | 7                      | 6                       | 5                                      | 4                             | 3                                     | 2                      | 1              |
| 遊びを完成させる。(行為) | 興味深い遊び方を示す。(行為) | 遊びの進行を整える。<br>(行為及び言語) | 新しい活動に興味を示す。 | 新しい活動に入る。(行為) | 新しい活動を思いつく。<br>(行為及び言語) | 次の活動を暗示する。<br>(行為及び言語) | 幼児の希望を未然に察知する。 | 魅力的な材料に興味深げに示す。<br>(行為及び言語) | 幼児を励まし賞める。<br>(表情及び言語) | 幼児の活動を技術的に援助する。<br>(行為) | 遊びの第一線から退き、遊びをより深化させるための準備をする。<br>(行為) | 発生した問題を遊びの中で解決する。<br>(行為及び言語) | 幼児に親しいものを、遊びの中に積極的にとり入れる。<br>(行為及び言語) | 遊びの進行を整える。<br>(行為及び言語) | 実際に遊んでみせる。(行為) |
| B A           | B A             | B A                    | B A          | B A           | B A                     | B A                    | B A            | B A                         | B A                    | B A                     | B A                                    | B A                           | B A                                   | B A                    | B A            |
| ②⑤のイ          | ⑬⑭のロ            | ⑭のロ                    | ⑩のハ、⑬のイ      | ⑦⑧            | ④⑥のハ                    | ⑥のロ                    | ⑩⑪             | ④                           | ⑬⑭⑮⑯のロ                 | ⑫⑬⑭⑮のイ、ロ                | ⑮⑯⑰                                    | ⑲のロ                           | ⑱⑲                                    | ⑮⑯⑰のロ、ハ                | ⑲⑳㉑            |
| 2             | 3               | 1                      | 1            | 2             | 1                       | 1                      | 1              | 1                           | 1                      | 4                       | 4                                      | 3                             | 1                                     | 1                      | 1              |
| 2             | 4               | 3                      | 2            | 2             | 1                       | 2                      | 2              | 2                           | 5                      | 4                       | 3                                      | 2                             | 5                                     | 2                      | 7              |

活動の内容  
記録  
計

める・「次の活動を暗示する」などが事例Aでは効果を挙げていない。これは、次のように解釈できるであろう。つまり、事例Aのように、遊びの経験に乏しく、遊び方を知らない幼児達に対しては、先ず遊び方を具体的に知らせるような活動が必要であり、ある程度の経験をしている対象に対しては、幼児自身から発生した活動を土台として、それを高めるための助力的行為が効果的なのである。

③問題解決の方法が幼児の活動を深化させるのに役立つ。

事例Aの「お店やごっこ」では、売り買いの進展に伴って一つの問題が発生した。即ち「お店や」側では「売り物」がなくなり、「お客」の側では「お金」がなくなってしまったのである。この場合、いろいろな解決の方法が考えられるであろう。例えば(イ)「売り物」と「お金」を相手に返させる。(ロ)「お店や」と「お客」の役割を換えさせる。(ハ)教師が新たに「売り物」や「お金」を作って材料の補給をしてやる。(ニ)幼児と一緒に材料作りをする。などである。

しかし、(イ)の解決法は、遊びをそのまま継続させるであろうが、このことがきっかけとなって、遊びに別の局面を展開させたり、遊びをより興味深いものにすることは出来ない。(ロ)は遊びを一時中断してしまう。(ハ)はもし役割の転換が混乱なく行なわれたとすれば、また一つの興味をひき起し得たかもしれないが、遊びそのものの流れから見ると、ちょっと不自然である。ここでとられている方法は、先生が作っている材料を「お店や」の主人達がたまったお金を持つて買いにくることによって「売り物」を補給するという方法であった。つまり、教師が「問屋さん」の役割をとったわけである。この解決法が幼児達の遊びに複雑な内容を与え、その活動を一歩前進させているし、幼児達の興味をも、より深めている。そして、それが遊びの流れを中断もせずに、それせもしないで、その流れの方向において流を、幅広く深いものとしているのである。

④教師の活動は幼児の主体性をもった反応との相対的な関係において成功する。

一見必要そうに思える教師の働きかけが功を奏さず、対象の上をただすべって通り過ぎてしまっている場合がある。例えば、事例Aにおける活動④、即ち教師が材料を出して幼児を誘って作り始めるが、幼児達はちょっと手を出しかけてすぐ止めてしまっている場合や、同じく活動⑥のイ、即ち積木で汽車ごっこをしてみせ、幼児がまねしてやり始めてすぐ止めてしまっている場合などである。これに比して、同事例の活動⑥のロ、つまり、「カバンをとってくれ」という幼児の要求に対して、「汽車ごっこするのね」と活動内容を暗示しつつその要求を充たしてやった場合は、その行為が対象児全員を積極的に汽車ごっこへと導入している。

「幼児の興味に基いた活動を展開させる」とは保育の根本的な原理の一であるが、実際的には幼児の興味を察し得ない場合もあるし、また、整えられた環境での保育経験に乏しい幼児達においては、その興味と自発性が、具体的な対象（活動或いは材料）に向けて発動され得ない時も多いわけである。このような場合、先ず幼児自身の興味を誘い出すための働きかけが必要であるために、教師がさまざまな「試みの行為」をしてみるわけであるが、その中で幼児の主体性を持った反応と、よくかみ合わされたものが、導入活動として効果をもつものである。

⑤適当な時機に教師は遊びの第一線から退くことが必要である。導入された活動を、幼児自身のものでして深化させるためには、これも根本原則の一つと考えてよいであろう。

#### ◆幼児の活動について

ある幼児の活動が、他の幼児を遊びへ導入する、また、その幼児自身を更に深く遊びへ入らせるきっかけとなっている場合は、この

事例では教師のそれほど多くはない。しかし、ここでも興味深い二、三の解釈が下され得るであろう。

①幼児自身が真剣に積極的に工夫して遊ぶ場合は、他の幼児をひきつけ、同時に自身をもより深いその活動へ没入させ得る。

事例Bで、既に遊びはじめた幼児達が砂山を築くことに夢中になり、更にその砂山の頂上に棒や石を立てるために工夫をこらし始めた時、傍観者の表情が真剣になり、のり出すようにその活動を見守り、とうとう一人で砂場のすみに入って砂をいじり始める場面が報告されている。更に、これらの行為は、この遊んでいる幼児達自身の興味をも益々その活動へ集中させ、より真剣に活動ととり組む意欲を起させる結果を産んでいるのである。

②構成的な材料を使用する場合は、完成に至るまでその活動が続けられることが望ましい。

事例Bのように砂遊びの場合は、一人の幼児がやりかけたことを完成した。即ちトンネルを貫通させた、ということが他の幼児を真剣にもし、工夫もさせて、トンネル作りに没頭させている。また、その幼児自身も、更に今一つのトンネルを完成させようと、より真剣に遊びを継続し、自由活動時間がきた時も、その活動に強い執着を示している。

これらの例は、着手させたことを完成させるような指導と助力が必要であり、また、それが可能な時間及び材料が与えられねばならないという、実際的な方針を示すものといえる。

#### ◆材料・その他について

①材料の魅力は、幼児自身の主体性をもった反応との相対的な関係において発揮される。

事例Aで、最初に提出された材料（画用紙の果物）は教師の予想を裏切って、余り幼児達の興味を引いていない。しかし「お店やご

「こ」が展開されてから、教師の補給する「大きなすいか」や「大根」などは幼児から非常な期待と歓迎をもって受け入れられている。また、「お店やごっこ」開始寸前に提出された「お金（牛乳びんのふた）」は、幼児達を遊びへ引き入れる導火線の役目を果たしている。材料の吟味が、単に材料そのものの価値においては独立してなされても意味がないことを、はっきりと示すものといえよう。

② 選ばれる活動と時機との関係は重要である。

事例Aにおいて「お店やごっこ」が選ばれたことは極めて賢明であった。即ち、次のような諸条件が「お店やごっこ」の展開に利していたわけである。(1) 雨の日であって、戸外の活動は不可能であった。(2) 保育開始後七日目で幼児達と保育者との結びつきも出来ていたし、保育所の生活に適応し始めていた。(3) 前日行なわれた「汽車ごっこ」が幼児達にとつて楽しい経験であり、当日も保育所で行なわれる活動に期待をもっていた。などである。このような時にタイミングよく提出された活動が効果的に幼児を引きつけ得たわけである。同様なことが事例Bにおいてもみられるであろう。

③ 活動の導入に際しては過去の経験が有効的に作用する。

事例Aで、幼児達は前日行なった「汽車ごっこ」へは強い興味を示しているが、新しく提出された「お店やごっこ」のとりつきには混乱がみられる。事例Bでは、保育者が海辺での砂遊びを想起させたことが、活動への導入をスムーズにしている。

これらの資料から、幼児達はその過去の生活の中で経験したことを土台として、それに関連をもたせ、新しい活動を誘導することの有効さに改めて気附かされるわけである。

④ 全体として、自由なのびのびした雰囲気の流れている。

幼児の活動自体を包む雰囲気的重要性はいうまでもないが、両事例とも、自由な活動の許される時間であり、場面であったというこ

と、そのような場で展開された活動であったことを再認識する必要がある。

——むすび——

「幼児の遊びを、表面的・形式的なものとなせず、より充実した、より豊かなものにした」とこれは私達の常に願っていることである。それは何らかの媒体による、巧みな誘導を必要としがちである。この誘導の過程及びその方法を探ることは、私達保育者に与えられた最大の課題といひ得る。この問題に対処する研究的な試みの一部として、ある活動へ幼児達が導入されていく過程を分析し、考察した。

資料としては、幼稚園現場で日常展開される保育の中での、成功体験の記録を用いた。これは前述のように、現場の経験例（特別に研究として計画されなかつた場合のもの）を、よりよい明日の保育のための資料として活用する試みである。

ここに引用したのは二例に過ぎないし、分析の結果見出された事例にも格別の新しさはないかもしれない。しかし、「私達が幼稚園の現場で、ある一日の保育を行なえば、それが一つの資料として蓄積されてもよいのではないだろうか、その研究的な処理をくり返すことによつて、実際のな保育の法則が導き出されてくるのではないだろうか」という私達のねらいの一端は示されていると思う。このような手続きを機会あるごとくり返すならば、そして、その一例ごとに導き出されたものを集大成し、体系化するならば、そこに動かして得ない方法上の共通原理と、対象の質に応じ、その時の条件に応じて変化する浮動的な原則とが、浮かび上ってくるのではないだろうか。体当り的な現場の生活と研究主義とを結びつける為にも、また、私達自身の毎日の保育を反省するためにも、このような試みを今後くり返し、続けていくつもりである。